

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500212
法人名	新居浜医療生活協同組合
事業所名	あったかほーむ たかつ
所在地	愛媛県新居浜市高津町3番20号
自己評価作成日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員一同、自立支援に向けた取り組みを行っている。
手を出しすぎない、出来る事は自分でして頂く事をモットーに見守りを重視した支援を行っている。
また、家族、地域の方がいつでも気軽に出入りでき、利用者との対話できる家庭的な雰囲気作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所建物内に造られている「キッチン付きの交流ルーム」を地域の方に開放されており、いつでも、誰でも、利用していただけるようになっている。地域の方から、「ちょっと貸して」と声がかかり、1月には、5～6人の高齢者の方が友人同士でお誕生会を開かれた。
- 季節の花を見にドライブに出かけられたり、近くの喫茶店に散歩がてらおやつを食べに行かれることもある。又、敷地内にある診療所のデイケアに、週1回程度、カラオケや舞踊、寸劇等を披露されるボランティアが来られ、利用者も見学に出かけておられる。
- 玄関には、1月に地域の小学校からプレゼントされたパンジーのプランター等を飾っておられた。水遣りや草引き等のお世話をしてくださる利用者がある。2階へは、エレベーターで上がり降りされており、2階ユニットから利用者が降りる時は、2階ユニットの玄関で下履きに履き替えるため、利用者は、外出したように感じ、気分転換になるようだ。観葉植物等が置かれてある中庭があり、2階からも見下ろすことができる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 あったかほーむ たかつ

(ユニット名) 1階・2階

記入者(管理者)

氏名 才川 真由美

評価完了日 平成25年 1月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 医療生協の理念と当事業所の理念を読み取り、利用者・ご家族・職員が安心して、生活・ケアが出来るように共有している。	
			(外部評価) 事業所開設時にユニットの責任者で話し合い、「生活そのものをリハビリとし、自立支援と心のケアに努めます」「その人の残存機能を引き出します」等、5つの理念を掲げておられる。理念は、廊下や居間の壁に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方々との挨拶や散歩等にて、つながりを図っている。ワークキャンプやボランティア訪問、子供達との交流など少しずつ輪が広がっている。	
			(外部評価) 事業所建物内に造られている「キッチン付きの交流ルーム」を地域の方に開放されており、いつでも、誰でも、利用していただけるようになっている。地域の方から、「ちょっと貸して」と声がかかり、1月には、5～6人の高齢者の方が友人同士でお誕生会を開かれた。近所の方が、ご自宅で採れた野菜をおすそ分けしてくださったり、旅行に出かけた折にはお土産をいただくこともある。職員が庭で洗濯物を干していると、手伝ってくれる近所の方もおられるようだ。気候のよい時は、毎日のように散歩に出られ、近所のお庭を見せていただくこともある。事業所には、月に1度、俳句のボランティアが来てくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の研修に参加したり、事業所内でも認知症の学習会を開き、地域の方にも参加を呼びかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	<p>運営推進会議で話しあった事は運営会議などで報告し、サービス向上にいかせるよう職員同士共有している。</p> <p>管理者は、運営推進会議を、「防災と認知症を知っていただける会議にしたい」と取り組みをすすめておられ、外部講師を招いてメンバーと一緒に勉強されている。今後、管理者は、会議に「地域のいろいろな方に参加していただき、協力者を広げていきたい」と話しておられた。</p>	
			(外部評価)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	<p>運営推進会議に参加して頂き、市の現状や困っている事など実情を利用者・ご家族・地域の方々と話し合いを行い、意見や指導を受けている。</p> <p>利用者がひとりで出かけて行かれたことがあったが、まず、市の担当課に連絡をして、アドバイスをいただき、地域の方等にも協力していただいた事例がある。会議参加時、市の担当者からの発言は少なく、今後は、もっと意見等をいただけるよう、前もって意見や説明していただきたい内容等を伝え、会議参加を働きかけたいと考えておられた。</p>	
			(外部評価)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	<p>身体拘束の研修に参加し、話し合いも行っている。当事業所では身体拘束をしない事に徹底している。身体拘束研修報告書・資料を回覧し、職員で共有している。</p> <p>日中は、玄関の施錠はされていない。ユニット毎の玄関には、卓上のセンサーが設置されており、人の気配があるとチャイムが鳴るようになっている。ひとりで出かける利用者の居室の窓際にはソファを置いているところがみられた。利用者の行動等について、今後も観察しながら原因をひもとき、利用者が安全で自由な暮らしができるよう、ケアに工夫されてほしい。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、研修報告書を提出している。事業所内でも研修会を開き、職員全員で共有認識し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修に参加している職員もいるが、これからも学ぶ機会を持ち、話し合いを行い理解していけるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学時に丁寧に説明を行っているが、契約前にも再度質問・疑問がないか尋ね説明を行って理解と納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪された時、意見や要望を聞き全職員が対応できるよう努めている。	事業所では、不定期ではあるが年3回事業所便りを発行されており、今後は、定期的に発行してご家族に事業所の様子を伝えたいと考えておられる。今後、ご家族一人ひとりに知りたい情報等をお聞きしながら、情報発信に工夫されてみてほしい。
			(外部評価) 管理者の交代時には、ご家族に「挨拶状」を郵送してお知らせされた。毎月、ご家族には、献立表を郵送されており、利用者個々の担当職員から普段の生活の様子等のコメントを一言書くようにされている。すべての利用者をより知るために、職員は、担当利用者を3ヶ月毎に交代する仕組みを作っておられる。5月の運営推進会議は、「家族会」も併せて開催され、3名のご家族が参加された。ご家族からは、「このまま穏やかに過ごしてほしい」等、暮らしの希望がうかがえた。9月の「敬老会」時には、8名のご家族の参加があり、利用者と一緒に食事したり、ボランティアによる三味線の演奏等を楽しまれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期的に運営会議を開いて、日々の気づきや職員の意見・提案を聞く機会設け、反映させている。 また、問題が発生した時にも随時、会を開いている。	
			(外部評価) 職員の「認知症の理解」を深めるために、毎月職員が集まる「運営会議」時に勉強会を行っておられる。介護職員はもちろんのこと、調理専門職員や事務員・看護師等、事業所にかかわるすべての職員が参加されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員には自己評価を提出してもらい、契約更新時に面接を行い話し合いを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内を掲示し、参加の呼びかけを行っている。 研修報告の回覧、研修発表を行い、知識の共有を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県・市内のグループホーム研修に参加し意見交換・交流を図っている。 法人内のグループホームでも定期的に意見交換を行い、質の向上に取り組んでいる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりに気を配り、体調や動きを連絡ノートで職員が把握して声掛けや横に寄り添い要望等を聞き安心して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約内容・医療関係等事前に説明を行い、不安な事や要望等に傾聴の上、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前説明をじっくり行い、本人・家族が最も必要としている支援を職員全員が把握し安心して頂けるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の状態に合わせて出来る事を見つけて、職員と一緒に洗濯物をたたんだり、テーブル拭き等して頂いている。一緒に出来る事を見つけ出し、協力しあえるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族のできる範囲で受診等依頼する事によって共有できるよう努めている。 また、利用者、家族、職員と一緒に参加できるレクリエーションや食事会等も実施している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前に利用していた理・美容院や病院等、馴染みの関係を大切にしている。 馴染みの方の訪問の際は、ゆっくり話す場所を提供している。 (外部評価) ご家族がご本人のお好きな蒸しパン等を作って来られて、居室で一緒におやつを楽しまれる方がいる。又、ご家族が迎えに来られ、馴染みの美容室に出かける方がいる。事業所に理容師が来られ、利用者で髪型を相談しながら切ってくれるようになっている。	今後、利用者個々の担当職員が計画を立てて、利用者一人ひとりの「思い出のふるさと訪問」をすすめたいと考えておられた。利用者が大切にしているものや人、場所等を探りながら、つなげていくような支援にも取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の時やレクレーションの時など、席を変えて変化をもたらし、利用者同士が楽しめるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された時は必要に応じて、相談・支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、利用者の希望を聞き、職員と共有している。 居室担当を決めており、利用者・家族への近況報告は担当者が毎月1回行っている。 誕生日や個別外出等利用者の希望に添えるように努めている。 (外部評価) 職員は、入浴時等、利用者と「二人つきり」になった時を「聞き出すチャンス」と捉えて、利用者のお話を聞きながら、思いや意向の把握に努めておられる。	日々のかかわりの中から知り得た情報を蓄積して、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に関係機関からの情報提供をお願いしている。 利用者本人や家族・知人の訪問時の会話の中から情報収集を行っている。新しい話が聞ければケース記録に残し、職員全員で共有し把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズムや心身の機能・持っている力等を把握するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者の意見は日々の会話の中から汲み取り、家族については面会時に話を聞き、カンファレンスを行い、より良い計画作成ができるように職員が協力している。	
			(外部評価)	
			モニタリングは、3ヶ月毎に実施しておられ、介護計画の見直しは、利用者個々の状態に応じて、6ヶ月～1年で行っておられる。計画には、「その人に必要なこと」を中心に作成しておられ、「トイレ誘導」「水分補給」「リハビリ」等の支援を盛り込んでおられた。	すべての職員でアセスメントの充実に取り組み、利用者個々のその人らしい暮らしを続けられるような介護計画の作成に取り組みしてほしい。又、介護計画作成のプロセス等についても、勉強会等を通じて職員で勉強される等、チームが一丸となってケアに取り組みしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子を詳細に記録している。 記録を元に話し合いを行い、ケアプランにつなげている。 必要なところは変更・見直しを行っている。	
			(外部評価)	
			利用者の体調の変化や家族の状況の変化により急を要する時は職員が行っている。 本人が希望している事があれば、家族と連絡を取り、職員と一緒に行動している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
			ボランティアによる慰問、事業所内のデイサービスの行事に参加し楽しみが持てるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の往診、受診の支援や通院介助を行い、指導や助言を得るようにしている。	
			(外部評価) 入居前からかかっている医療機関に、続けて診てもらえるよう支援されている。受診は、基本的にご家族が付き添うようになっているが、ご家族の都合等もあって職員が同行することが多いようだ。発熱等、何か異常があった時等は、まず「ご家族に連絡」して相談されている。定期受診に職員が同行した際、異常があったり、薬の変更等、何か「変わったこと」があれば、電話でご家族に伝えるようになっており、どんな薬を飲んでいるか等の詳しいことは、ご家族に知らせるまでに至っていないようだ。歯科治療が必要な場合は、近くの歯科医院で診てもらえるよう、職員が付き添っておられる。敷地内にある法人の診療所に毎日リハビリに行かれる方もおられ、調査訪問時には、利用者がシルバーカーを押して職員と出かけていかれた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤の看護職員がいるので、利用者の心身の変化にもすぐに対応できている。 職員全員で状態の把握が図れるように努力している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院となったときは、医療機関と連携を取り、情報提供をまめに行い、退院につなげている。 入院中はお見舞いに伺い安心して治療できるように声掛けし、情報交換や相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合は医療機関・家族と何度も話し合い、協力体制が速やかに取れる様に努め、その人らしい生活が出来る様に支援を行っている。	
			(外部評価) 入居説明時には、希望があれば事業所で看取り支援が可能であることをご家族に説明されている。以前は、法人内の訪問看護事業所と連携する体制であったが、10月より看護師が事業所に勤務するようになり、今後ご家族に医療連携体制について説明して、意向をうかがうことを予定されている。ご家族より、「本人が昔から延命はしてほしくないと言っていたので、そうして下さい」と言われている方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会等に参加、また学習会を開き職員が急変に対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、避難方法や場所を確認している。 災害時の非常用食料や飲料水の備蓄も行っている。 地域の方の協力も得られる様に日頃から挨拶などを行い、関係作りに努めている。	
			(外部評価) 10月の運営推進会議において、消防団員でもある法人のボランティア団体「銀のいと」の方に「日頃の地域のつながりを持った防災」について話していただいた。そのことがきっかけとなり、地域の消防分団長を紹介していただけ、事業所に来てくだり「いつでも駆けつけます」と、言葉をいただいた。具体的なことについては、次回の運営推進会議に参加していただいで話し合われるようだ。地震や津波等、自然災害についても、協力体制を構築していくこととなっている。3月には、消防署の協力のもと、消防団員の方にも来ていただいで、夜間の火災を想定した避難訓練を実施する予定がある。備蓄については、現在、法人全体で準備中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守ってプライバシーを損なわない様な人格を尊重するに価する対応、言葉かけに毎日努めている。	日々何気なく利用者にかけている言葉や呼び方、対応について、利用者の立場に立ち、職員一人ひとりが振り返る機会を定期的に作ってはどうか。
			(外部評価) 職員は、「どうしたら利用者に喜んでいただけるか」ということを常に考えながら、日々のケアに努力されている。昼食時、職員は、苦手な野菜に手を付けていない利用者の横に座り、そっと話しかけられ、その後、利用者は笑顔を見せながら、野菜を口に運んでおられた。利用者と職員の関係ができて上でのことであるだろうが、調査訪問時には、職員の利用者への呼び方や言葉かけ、対応に気になるような場面が見受けられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から話しかけやすいような雰囲気作りに努め、利用者本人からうちとけてもらえるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に希望などがあれば実施している。 楽しく過ごせる様、笑顔になれるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 毎朝、鏡の前で自分で出来る人はしている。 出来ない人は支援している。 男性の利用者はヒゲ剃りも行っている。 女性の利用者は髪の毛をくくったり、ピンで止めたりして いる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みに合わせて量、大きさ、食材等に気をつけて 盛り付けている。苦手な食材がある場合はその方に 合わせて違う食材を提供している。 食欲のない利用者には声掛けをしたり、食べやすいよう 工夫している。 準備、片付け等も出来る範囲で一緒に行っている。 (外部評価) ユニット毎に調理専門の職員を配置して、事業所で食事を作って おられる。献立も、調理専門の職員が毎月、立てておられるが、利 用者がテレビのCMを見て例えば、「牛丼が食べたい」と希望される ようなこともあり、その時々に応じて献立を変更される。地域の方か らいただいた野菜を使用されたり、地域の商店から食材を配達して もらうようになっている。近くの肉屋への買い物や食材の買い足し 等があれば、利用者と職員で出かけることもある。開設当初は、利 用者も台所に入り、職員と一緒に食事作りを行うこともあったようだ が、介護度の重度化がすすみ、現在は「難しくなった」ようだ。利用 者の持っている力を活かして、食事一連の中でかかわる機会をつく り、利用者の生活の自信や意欲向上に取り組み、職員が目指す 「利用者の喜び」につなげていかれてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を記入しチェックしている。 飲み込みが悪い、ムセがある利用者には小さく切ったり、 トロミをつけたりして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食事以外にも起床時、眠る前にも口腔ケアを実施している。 出来ない利用者には介助し行っている。 夜は義歯の消毒を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、出来るだけ同じ時間帯に声掛けし、トイレ誘導を行っている。 夜間も同じ時間帯にパッド交換を行っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、昼間は布パンツにパッドを使用して、トイレで排泄できるよう支援されている。事業所のトイレの扉は、利用者が「かわや」をイメージできるような扉にされており、トイレの表示はないが、場所を間違える方はいないようだ。排便の訴えが難しい方も、「午前と午後一回ずつトイレに座っていただく」ことで、トイレで排便できるよう努めておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量を記入し、どれだけ飲めているかチェックしている。 水分やおやつ以外にも運動、レク、入浴後は必ず水分補給をしている。 中々、水分摂取できない利用者には甘くしたりゼリーにしたり工夫している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の体調、希望など個々に応じた対応でゆっくり入浴されている。 浴槽に入る事ができない人はシャワーだけでなく、足湯をしたり暖房をつけて暖かくしている。	
			(外部評価) 事業所では、一日おきに入浴できるよう支援されている。入居時、「立位のとれない方」については、浴槽で温まる支援が難しく、シャワー浴になることをご家族に説明し、納得していただいている。浴槽は、利用者の身体の特徴等にに合わせて左右に移動できるようになっており、バスボードと合わせ、介助する職員の身体的な負担も少なくなるような配置をとることができるようになっている。利用者一人ひとりに「ゆっくり静かにのんびりと湯船に浸かっていただけよう、入浴の声かけから最後まで、基本的に一人の職員が支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間は個々のリズムで入眠できるよう支援している。 気持ちよく眠れるよう室温・湿度の調整も行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの病状を把握し、薬もその都度確認し、服薬の間違いのないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのADLや嗜好などを理解し、それに合った家事などを手伝ってもらっている。 歌や踊りなどの行事に参加して頂き、喜びを感じてもらえるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や花を見に行ったり、ドライブや買い物にでかけられるように支援している。 家族との触れ合いも大切にしている。	
			(外部評価) 季節の花を見にドライブに出かけられたり、近くの喫茶店に散歩がてらおやつを食べに行かれることもある。又、敷地内にある診療所のデイケアに、週1回程度、カラオケや舞踊、寸劇等を披露されるボランティアが来られ、利用者も見学に出かけておられる。寒い時期は、感染症対策のこともあり外出は少ないが、春からは「両ユニットの職員で協力し合い、外出の機会を増やしていきたい」と考えておられた。又、ご家族にも外出支援のあり方等について、要望等をお聞きする機会も作ってみてはどうだろうか。利用者がこれまで好んで出かけておられたような場所等も、お聞きしてみてもうだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理のできる利用者さんには買い物時に自分で支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話や事業所の電話を使用している。 いつでも必要な時、自由に電話してもらえるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者同士が話したり、歌をうたったり、ゲームしたり、楽しく過ごせるよう工夫している。 季節を感じてもらえるように壁の飾りを作ったり、花を飾ったりしている。	
			(外部評価) 玄関には、1月に地域の小学校からプレゼントされたパンジーのプランター等を飾っておられた。水遣りや草引き等のお世話をしてくださる利用者がいる。2階へは、エレベーターで上がり降りされており、2階ユニットから利用者が降りる時は、2階ユニットの玄関で下履きに履き替えるため、利用者は、外出したように感じ、気分転換になるようだ。観葉植物等が置かれてある中庭があり、2階からも見下ろすことができる。調査訪問時、居間でテレビを見る方や、職員とテーブルを囲み新聞でゴミ箱を折る利用者の様子がうかがえた。午後からは、体操や風船バレー等、「身体を動かす」時間を作っておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアにて過ごされたり座敷にソファを置き、一人の時間もとれたり、テーブルを囲み歌を歌うなどして過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室では自宅で生活していた思い出の品やダンス、布団を使用している。 仏壇も用意してお世話している利用者もいる。	
			(外部評価) 各居室に、洗面台が設置されており、調査訪問時、昼食後には、職員が見守り、歯みがきをする利用者の様子がみられた。仏壇を持ち込んでおられる方は、シキミを供えられていた。ご本人は、ご自分で水を替える等しておられる。職員がお湯を居室まで届けておられ、居室で急須を使ってお茶を楽しまれる方もいる。CDラジカセを持って来られ、好きな浪曲を聞く方もいる。ご家族の写真を飾ったり、テレビやダンス、机を持って来られている方もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下は動きやすいスペースを取り、歩行練習を行っている。トイレは肘置きも設置しており、ゆったりと行うことができる。手すりも設置しており、自分で立てない人も立つことができ、安全に自立した生活を送れるように支援している。	